

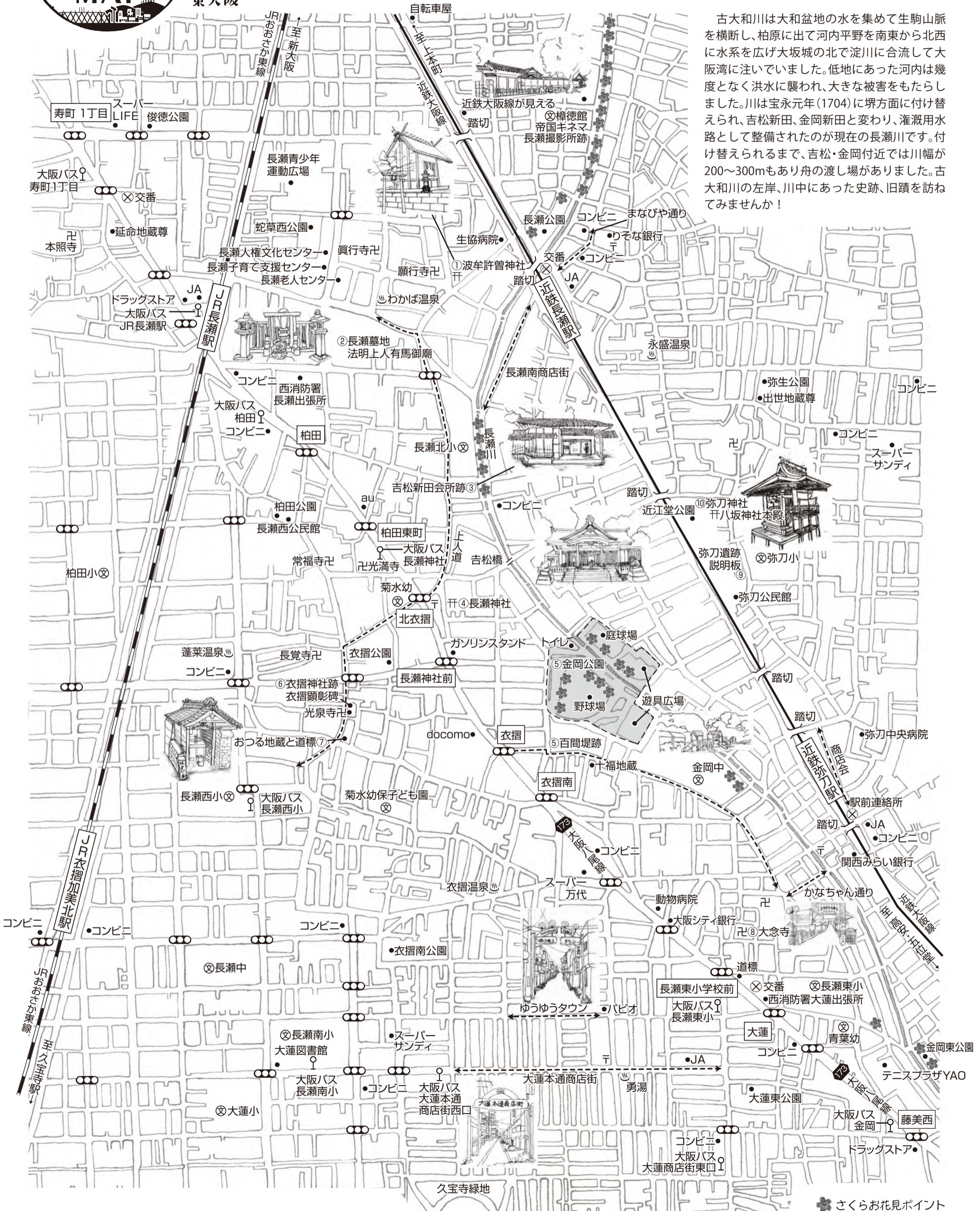


# ながせ 長瀬 ~ 弥刀 駅周辺コース

— 古代から栄えた地、古大和川左岸と長瀬・衣摺を歩く —



東大阪市  
マスコットキャラクター  
トライくん



古大和川は大和盆地の水を集めて生駒山脈を横断し、柏原に出て河内平野を南東から北西に水系を広げ大坂城の北で淀川に合流して大阪湾に注いでいました。低地にあった河内は幾度となく洪水に襲われ、大きな被害をもたらしました。川は宝永元年(1704)に堺方面に付け替えられ、吉松新田、金岡新田と変わり、灌漑用水路として整備されたのが現在の長瀬川です。付け替えられるまで、吉松・金岡付近では川幅が200~300mもあり舟の渡し場がありました。古大和川の左岸、川中にあった史跡、旧蹟を訪ねてみませんか!

さくらお花見ポイント

# ながせ せ み と 長瀬～弥刀駅周辺コース

—古代から栄えた地、古大和川左岸と長瀬・衣摺を歩く—

## ①波牟許曾神社 はむこそじんじゃ

創建年代については詳かではありませんが、延喜式神名帳記載の歴史の古い由緒ある神社です。『大阪府全志巻四』に、明治5年(1872)には村社に列し、そばに神明池があり里民はこの池水を使って齋戒沐浴していたという。江戸時代は広い敷地をもった大社であったと考えられます。明治41年(1908)に長瀬村内の八社の合祀が決まり、大正元年(1912)衣摺字南山の地に創建された長瀬神社に合祀されました。しかし地元氏子たちの熱意により、大正3年(1914)、旧跡地に伊弉諾大神などの祭神を迎え祭祀を続けることとなったといわれています。社殿は、本市内には数少ない神明造りで、神明鳥居が建っています。鳥居には「十六葉の菊の紋」をあしらった黄銅製の輪が巻かれています。

## ②長瀬墓地・法明上人有馬御廟(市指定文化財)

東入口の右側に行基井と六地藏に続いて「行基大菩薩」と刻まれた供養碑があります。往古は玉造より東百ヶ村の墓地でありました。墓地内にかつては墓寺としての阿弥陀院があり本尊の阿弥陀如来坐像と右側に鋤を手にした行基の木像が安置されています。通常は如意(僧が説法するとき手にする具)を手にしていますが、鋤を手にしているのは大変珍しい仏像です。有馬之三昧は日本最初の火葬の墓地といわれています。

墓地内には、まわりより一段と高く玉垣で囲まれた石造の無縫塔があります。築造年代は不明ですが、門柱には「法明上人有馬御廟」と刻まれていて、法明上人の墓であることが分かります。法明上人は、摂津国深江出身の鎌倉時代の高僧で、融通念仏宗を河内・大和に広めた人です。

## ③吉松新田会所跡 よしまつしんでんかいしよあと

長瀬北小学校本校舎と南校舎の間の道は、上人道または平野道とも呼ばれ、大阪市平野区の融通念仏宗の総本山大念仏寺や長瀬墓地に祀られている法明上人の参詣道でした。長瀬墓地前の「上人御廟道」と書かれた道標は、この四辻に立っていたものです。長瀬北小学校の一角は、宝永元年(1704)の大和川付替後開発された吉松新田(約16ha)の土地管理と年貢徴集等の仕事をした事務所「吉松新田会所」が残っていたところです。会所内には、制札場を持つ長屋門が西側の道に面し、主屋、土蔵、茶室、吉松新田の氏神であった竜華神社、築山と池を配した庭園が、生駒山を借景として造られていました。神社の石鳥居、燈籠、狛犬は長瀬神社境内に移されています。

## ④長瀬神社 ながせじんじゃ

神社は旧大和川堤防であった南山の地に大正元年(1912)創建されたもので、比較的新しい神社です。明治22年(1889)の市町村合併で長瀬村が誕生しましたが、それ以前の大蓮村、衣摺村、吉松新田、横沼村、柏田村、北蛇草村にあった8つの神社を明治39年(1906)の神社整理令(一村一神社)によって合祀されました。境内には多くの石造物が配置されていて、石造物の中で特筆すべきは、東大阪市内では最古とおもわれる灯籠一基が本殿南側の庭にあります。「正保4年(1647)長寛寺牛頭天王石灯籠」と、「延宝8年申(1680)銘の牛頭天王灯籠」があります。また、珍しい雄の象徴が刻まれた寛政五歳癸丑(1793)銘の阿形の狛犬(獅子)があります。

## ⑤金岡公園・百間堤跡 かなおかこうえん・ひゃっけんづつみあと

金岡公園は、吉松新田と同じく宝永4年(1704)に大和川付替後開発された金岡新田の跡地に造られました。公園の西側に沿った道は古大和川左岸の百間堤跡です。

## ⑥衣摺頭彰碑(衣摺合戦場跡) きざりけんしょうひ

蘇我氏と対立していた物部守屋を哀れんだ、聖徳太子がエノキの大木に衣の袖を擦りつけて嘆き悲しまれたことから「衣摺」となったといわれています。587年の衣摺の戦いは、当時、広大な河内平野と古大和川水系の水運、交易市を支配していた物部守屋と朝廷の財政を司っていた新興勢力、蘇我氏との戦いでした。主戦場は、物部守屋の本拠があった衣摺に稲城を築き、守りを固めていましたが、攻めてくる蘇我方に対してエノキの大木によじ登り雨のように矢を射かけました。蘇我方の軍兵は退却を余儀なくされましたが、軍を立て直し、大木に登っていた守屋は、迹見首赤橋に射落とされました。後世に、衣摺の稲城をはじめ物部守屋の戦いのゆかりの地の多くが、八尾太子堂・大聖勝軍寺周辺に比定されています。史実から見て物部守屋最期の地は、ここ衣摺が妥当であり、広く顕彰するため、平成元年(1989)に建立されました。

## ⑦おつる地蔵(辻地蔵)と衣摺の道標 おつるじぞう(つじぞう)ときざりのみちしるべ

この地蔵菩薩は近くに住むおツルさんが親のおウメが亡くなった後も、その遺志を継いで供養を毎日続けていたことから「おつる地蔵」と呼ぶようになったそうです。地蔵堂の棟木札の墨書には弘化3年(1846)の開眼供養に子孫の無事と衣摺村の幸せ、村人の健康を祈ったことが書かれており、もともとこの地蔵菩薩は衣摺村と隣の正覚寺村との境に立っていましたが、後に今の場所に祀られるようになりました。長瀬墓地には融通念仏宗の中興の祖、法明上人の「有馬御廟」があり、平野の融通念仏宗の総本山大念仏寺との往還の人々で多いに賑わった「上人御廟道」がありました。江戸時代の河内地方は、融通念仏宗が盛んで、市内各所に平野への道標が残っています。

## ⑧大念寺 だいなんじ

融通念仏宗の寺院で大念仏寺(大阪市平野区)を本山としています。中興の祖といわれている法明上人の墓も長瀬墓地内にあり、この地蔵と念仏宗のかかわりが深かったことが分かります。宝暦9年(1759)の大蓮村明細帳によると、一村に8カ所の同宗の寺・庵がありました。大念寺には、大蓮寺蔵と伝えられる室町時代作の足利絹を使用した絹本著色の般若守護十六善神画像が残されています。

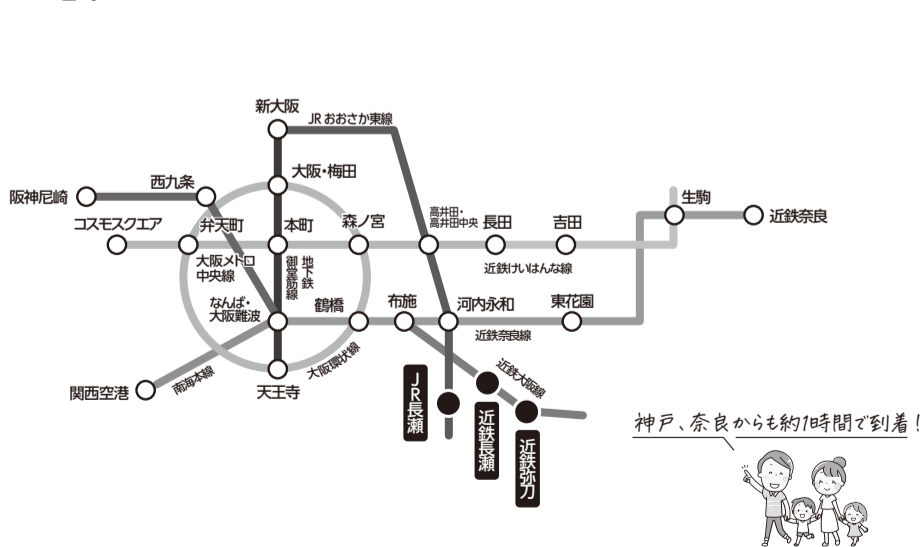
## ⑨弥刀遺跡 みといせき

昭和38年(1963)、弥刀小学校増築工事中に須恵器などが発見され、古墳時代の遺跡として知られるようになりました。後の調査で弥生時代後期末から古墳時代前期にかけての竪穴住居や奈良時代の土坑、平安時代中期～鎌倉時代の掘立柱建物・井戸・溝・土坑、室町時代の溝などが発見されています。縄文時代の終わり頃や弥生時代の土器も出土しており、集落も存在したことが予想されます。鎌倉時代の井戸からは、瓦器と呼ばれる椀や皿、常滑焼の甕や櫛などの他、桃の種などがみつかっています。

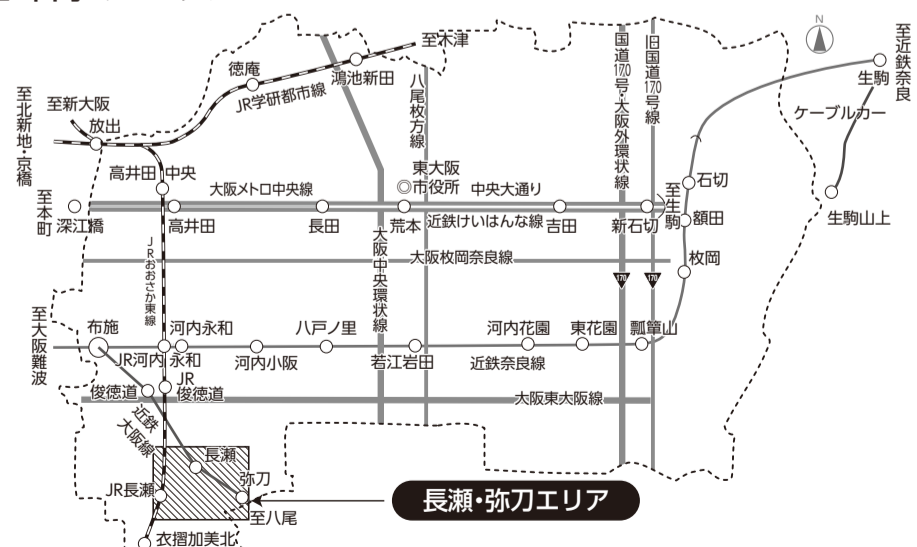
## ⑩弥刀神社・八坂神社本殿 みとじんじゃ・やさかじんじゃほんでん

神社の本殿は西方の旧大和川筋長瀬川に面し『延喜式神名帳』にのせられる式内社で、速秋津比古神他、二神が祀られています。『古事記』には、水戸神と登場する神にあたり、神社のある近江堂は、古代から旧大和川筋長瀬川の水上交通の拠点として繁栄した地域であったようで、中世の狂言にも「あうみどうのいちば」として登場します。現在の本殿は、二間社春日造りで、天保造営後、明治5年(1872)に再建したものです。本殿の南側にある摂社の八坂神社は、須佐之男を祭神として古くから武人の尊崇あつく祀られています。社殿は一間社春日造りで、江戸時代中期の作風を残す近世社殿建築の貴重なものとして、市の有形文化財に指定を受けています。

### ■ 電車でのアクセス



### ■ 市内ミニマップ



※一部路線、駅は省略して掲載しています。